

ディボーション質問表



イザヤ書は、1～39章と40～66章との二つに分けられます。今週の箇所は、「神の救いについての預言」(40～55章)の部分です。

23日(月) イザヤ書 46:1～13節 バビロンの神々と真の神

1. バビロンの神々(ベル、ネボ)と主が比較されています。それぞれの特徴を揚げてみましょう。主について言われている部分でどの点が心に留まりますか？
2. 主は何を思い出すように語られているのでしょうか？なぜそうすることが大切なのでしょう(8～13節)？

24日(火) イザヤ書 47:1～15節 バビロンの破滅

1. 娘という言葉は美しい城下町を表しおとめは一度も攻められたことがないことを表します。娘と言っている新バビロニア帝国は富と栄華の象徴で道徳はみだれ宗教儀式も盛んな悪魔の都市として有名でした。この町が裁かれる理由は何だと言われているのでしょうか(1～7節)？
2. 人は先を読み安心したいものです。彼らは占星術や天文学に長けていて高慢でした。ここからどのようなことを学べるのでしょうか(8～15節)？

25日(水) イザヤ書 48:1～11節 イスラエルの懲らしめ

1. イスラエルはどのようなことで責められていますか(1～4節)？
2. 主は愛のゆえに彼らをどうされると言われているのでしょうか(6～11節)？

26日(木) イザヤ書 48:12～22節 イスラエルの救い

1. 1節と同様「聞け」で始まりますが、前はイスラエルの形式的な信仰とかたくなな心に焦点があたっていましたが、ここでは主ご自身に向いています。主はどのようなお方でしょうか(12～19節)？
2. バビロン(快樂、虚栄、高慢)からのがれなさいといえます(20～22節)。主に頼らず快樂やこの世の富、力などで自分を満たしていたようなことはないのでしょうか？

27日(金) イザヤ書 49:1～13節 神はシオンを見捨てられない1

1. 1～6節を読んで、私たちはどのような存在だと教えられていますか？それはこの世のものと同じような関係でしょうか？しもべとはどのような存在でしょう。彼らにはやるべきことが明確でしょうか？
2. 7～13節を読んで、物理的な帰還の道のみは靈的なことから表しています。私たちが救われ主のみことばに従う生活になれるまではどのような道なのでしょう？また、靈的に墮落してから回復するのも同じようになるでしょう。その旅路の中に主の助けはあるのでしょうか？

28日(土) イザヤ書 49:14～26節 神はシオンを見捨てられない2

1. 主の約束がいくつも出てきます。あなたにとって最も心に残る約束は何ですか？イスラエルの人たちはその約束をそのように受け止めましたでしょうか(14～21節)？
2. 敵に対する神の復讐はかなりきびしいものです。人がする復讐と比べてどうでしょうか。あなたは敵に対してどのように対処していますか。自分の力で人間的な復讐をしようと凝り固まってはいませんか(ロマ12:18～21)？

***今週の箇所から3日以内に始められ、具体的、実現可能で計測することができる計画を聞いてみましょう。**